

| | | | |
|----------------------------|---|---------|---|
| 1. 科目名 (単位数) | ジェンダー論 (2単位) | 3. 科目番号 | GELA1331 |
| 2. 授業担当教員 | 岩切 英隆 | | |
| 4. 授業形態 | 講義、演習 (グループワーク含む) | 5. 開講学期 | 秋期 |
| 6. 履修条件・ 他科目との関係 | | | |
| 7. 講義概要 | <p>「女は家庭のなかで子育てをすることに向いている」とか「男は外で仕事をする事に向いている」といった「女らしさ」や「男らしさ」は、長い間、身体の仕組みや本能などの生物学的要因によって決定されるものだと考えられてきた。しかし、20世紀の後半から、「女らしさ」「男らしさ」の区別は、社会的・文化的要因と深く関係していると考えられるようになった。「ジェンダー」とは、「当該社会において社会的・文化的に形成された性別や性差についての知識」であり、性別を男女(※)に二分し、かつ、男女に非対等に資源を配分する社会構造・秩序を意味するものである。本講義では、「ジェンダー」という言葉の意味を理解した上で、現代社会の様々な社会現象・社会問題に対して、「ジェンダー」の観点から関心をもち、分析・考察し、表現する力を身につけると同時に、既存の社会構造の変革を通して目指されている“ジェンダー平等”な社会の姿を説明できるようになることを目指す。</p> <p>※「女」には、性/性別に関するさまざまなマイノリティを含む。</p> | | |
| 8. 学習目標 | <p>本講義の目的を達成するために、以下の3つの到達目標を設定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 「ジェンダー」の概念とその意義を理解した上で、わかりやすく説明することができる。 2) 現代社会における家族、労働、家事、育児、介護等の諸問題に内在する「ジェンダー」に関心をもち、それぞれの課題について他の受講者の意見を尊重した上で議論することができる。 3) 本授業での学びの成果をもとに、「ジェンダー」と、性/性別のあり方の多様性の観点から、現代社会における様々な社会現象・社会問題を分析・考察し、自らの意見を適切な表現を用いて表現することができる。 4) 既存の社会構造の変革を通して目指されている“ジェンダー平等”な社会、多様な性/性別のあり方が尊重される社会の姿を説明することができる。 | | |
| 9. アサシメント (宿題) 及びレポート課題 | <ol style="list-style-type: none"> 1 毎回の授業で、テーマやディスカッションのポイントに沿って資料を配布するので、きちんとノートを取る。授業の終わりに1,200字程度の課題文を課す。ポイントや考察を書くこと。 2 レポート課題 授業の中で次の課題を課すので、所定の期日までに提出すること。 「現代社会におけるジェンダーの課題について、授業で取り上げたトピックを参考に、問題点・社会背景・今後の展望等を論じなさい。」 | | |
| 10. 教科書・参考書・ 教材 | <p>【教科書】配付プリント</p> <p>【参考書】江原由美子・山田昌弘著『岩波テキストボックスα ジェンダーの社会学 入門』岩波書店、2008。 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房、2005。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説 第三版』中央法規、2011。</p> | | |
| 11. 成績評価の規準と 評定の方法 | <p>○成績評価の規準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ジェンダー」の概念とその意義を理解できたか。 ・現代社会に内在する「ジェンダー」の課題に関心をもち、それに対する自らの意見を深めることができたか。 ・「ジェンダー」と、性/性別のあり方の多様性の観点から、現代社会における様々な社会現象・社会問題を分析、考察することができたか。 ・“ジェンダー平等”な社会像、多様な性/性のあり方が尊重される社会像を説明することができたか。 <p>○評定の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平常点 (積極的参加度・授業態度・発表・発言等) 30% ・課題 (中間レポート・ワークシート等) 30% ・期末評価 (レポート・試験等) 40% | | |
| 12. 受講生への メッセージ | <ol style="list-style-type: none"> 1 授業においては、質疑応答を繰り返して行う。自身の意見をしっかりと表現することを常に心掛けること。また、ディスカッションでは、豊かな議論となるよう取り組むこと。 2 課題文およびレポートでは、次の点から評価を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 表現力 誤字脱字がない・読みやすい・適切な言葉を選ぶことができ分かりやすい。 ・ 論理性 説得力がある・序論から本論そして結論へと話の流れが整理されている。 ・ 思考力 引用に終始せず独自の考察が深められている・問題提起だけでなく解決策を探っている。 | | |
| 13. オフィスアワー | 授業終了後 | | |
| 14. 授業展開及び授業内容 | | | |
| 講義日程 | 授業内容 | 学習課題 | |
| 第1回 | オリエンテーション (講義概要の説明) 現代社会における「ジェンダー」 国際的比較 (男女間意識調査) | 事前学習 | キーワード「ジェンダー」について調べておくこと。 |
| | | 事後学習 | 「ジェンダー」について400字程度で簡潔に説明できるようにする。 |
| 第2回 | 「女らしさ」「男らしさ」の獲得 | 事前学習 | 子どもに対し「男/女らしくしなさい」と言うのはどんな場面か、例を探しておく。 |
| | | 事後学習 | ジェンダーを獲得することの意義について、プラス・マイナスの両面から、説明できるようにする。 |

| | | | |
|------|--|------|---|
| 第3回 | 「らしさ」の科学的解明 | 事前学習 | 男女間の相違について、一般的に根拠となっている科学的根拠について調査しておく。 |
| | | 事後学習 | 日本社会における、「らしさ」の一般的認識について、その理由と今後の方向性について簡潔にまとめる。 |
| 第4回 | フェミニズムとフェミニズム運動 | 事前学習 | フェミニズムという意味は何か、また代表的なフェミニズム運動について調べておく。 |
| | | 事後学習 | 第一波と第二波の違い、また第三波についてポイントをまとめる。 |
| 第5回 | 親密性とセクシュアリティ | 事前学習 | 一般的に「モテる」人にはどんな特徴があるのか、男/女で違いはあるか考察しておく。 |
| | | 事後学習 | セクシュアリティに関して男女で捉え方が異なるのはなぜか、簡潔にまとめる。 |
| 第6回 | 結婚相手を選ぶには —配偶者選択とジェンダー— | 事前学習 | キーワード「未婚化」「晩婚化」について調べておくこと。 |
| | | 事後学習 | 日本の若者の配偶者選択について、その特徴と展望を述べる。 |
| 第7回 | 結婚と婚姻について（社会的意味と日本社会における法的根拠の相違について考察する） | 事前学習 | 結婚するという意味について、社会的な意味と法的な意味について調べてくる。 |
| | | 事後学習 | 結婚の法的な意味を述べ、現代社会のジェンダーのあり方に及ぼす影響についてまとめる。 |
| 第8回 | 結婚と離婚について～離婚の諸相 | 事前学習 | 日本と諸外国の離婚率の変動について、調べておく。 |
| | | 事後学習 | 日本における離婚の増減と社会的背景の関連について簡潔に説明する。 |
| 第9回 | ジェンダーと近代家族の構造・機能①～性別役割分業 | 事前学習 | 配布資料（橋爪大三郎「家族—その変容の核」）を読んでおくこと。 |
| | | 事後学習 | 「近代家族」の終焉についてその理由を説明できるようにすること。 |
| 第10回 | ジェンダーと近代家族の構造・機能②～育児とジェンダー、日本社会の育児環境 | 事前学習 | 少子化もしくは育児に関する報道記事を探しておく。 |
| | | 事後学習 | 育児についての社会的な取り組みを考察する。 |
| 第11回 | 家事労働とジェンダー —家事は「女の役割」なのか— | 事前学習 | お金を稼ぐことは出来ないが誰かがやらなければ社会が機能しなくなる活動について、例を探す。 |
| | | 事後学習 | 家事労働とジェンダーのあり方について展望を考察する。 |
| 第12回 | 介護の社会化と「女らしい」仕事 | 事前学習 | 「女性が多い仕事」にはどんな特徴があるか、考察する。 |
| | | 事後学習 | 介護の社会化とその背景について説明できるようにすること。 |
| 第13回 | 労働とジェンダー —日本における男女の働き方・課題 | 事前学習 | 働き方について男性・女性というジェンダーに注目した報道記事を探しておく。 |
| | | 事後学習 | 日本の労働環境の変化・時代背景を理解し簡潔に説明できるようにすること。 |
| 第14回 | 「男性」受難の時代 —「男らしさ」と「男性」のありかた— | 事前学習 | 「男」の方が「女」よりも大変だ・何とかすべきだ、という具体例を探すこと。 |
| | | 事後学習 | 「男性」特有の「生き難さ」の特徴を説明できるようにすること。朝日新聞「父親のモヤモヤ」参照 |
| 第15回 | 日本社会とジェンダーのこれから | 事前学習 | 配布資料（永田公彦「女性が日本を救う」と叫ばれながら男性社会が崩れない、その本当の理由）を読んでおくこと。 |
| | | 事後学習 | 日本は男女格差が大きいが諸外国ほど問題化していない理由、展望について述べること。 |